

Clinical Case #1

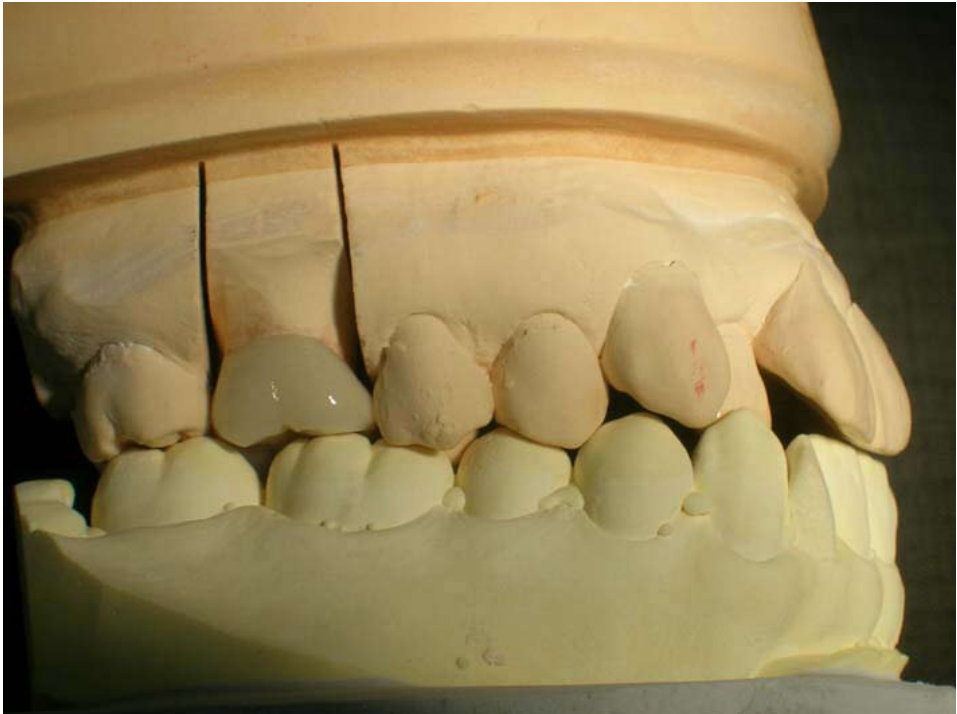


単冠でも全調節性咬合器？

セラミッククラウン・インレーの
調節は咬合器上で行なうのが安全。

メーカーは強度を強調するが
正直、破切の心配は金属冠の比ではない。

咬合の調和はセラミッククラウンの
破切を防ぐだけでなく
身体の健康を守る上でも重要である。



模型ではセラミック冠は調和した咬合のように見える。



しかるに、口腔内に試適してみると「高い」という。咬合器上で中心位で咬合させても過高ではない。



口腔内で側方運動すると非作業時の接触がある。
唾液で濡れたりして不鮮明である。



生体は中心咬合位におけるタッピングだけでも
側方運動時の異常接触を感知する。
これを中心位の過高と間違えて削合してはいけない。
咬合器上で側方運動させて見ると、中心咬合では
検出されなかった非作業時接触点が明瞭に出た。



咬合器上で検出された非作業時接触点のみを調整した。
中心咬合位の接触点はそのまま残した。



すると、自然な感覚になったという感想が得られた。

単冠でも全調節性咬合器

単冠症例でも、BGN 咬合器は極めて重要な役割を果たしてくれる。平均値咬合器を使用すると、咬合器上と生体とでは、側方運動時の咬合接触が異なってしまふ。つまり、上下咬合面の咬耗面が一致・調和しないのである。「もう少し下顎歯列が後方・上方に運動してくれたら顎模型の運動調和が得られるのに」と思うことが少なくない。このような場合に、BGN 咬合器では生体と同じ咬合接触をするように運動時の顎頭位を調節ができるのである。（顎頭位の調節法については「歯学部での BGN 実習デモ」を参照のこと

http://www.bgn.co.jp/more_menu/Let'sBGN/LetBGN01.html)

平均値咬合器では、顎頭位が調節できないから、せいぜい中心位での調節しかできない。また、市販されている上級半調節咬合器も顎頭位が全調節ではないために限界がある。

この症例は、もし咬合器の助けがなければ、中心位での接触も破壊され、側方運動時の有害接触点も検知し得なかったであろう。

**BGN 咬合器は必ずあなたの役に
立ってくれるに違いない。**